

議 事 録

会議名	令和6年度第1回豊山町学校給食アレルギー対応検討委員会		
年月日	令和6年7月11日（木）		
時間	午前11時～午後0時		
出席者	委員	委員長 上原 正子（愛知みずほ短期大学） 副委員長 野崎 千佳（N.キッズファミリークリニック） 委員 伊藤 英紀（志水小学校校長） 委員 伊藤 和代（豊山小学校養護教諭） 委員 渡邊 志保（豊山小学校栄養教諭） 委員 松久 南生（豊山中学校栄養教諭） 委員 伊藤 竜児（西春日井広域事務組合消防本部） 委員 赤羽 真理子（保護者代表者）	
	事務局職員	教 育 長 北川 昌宏 給食センター所長 牛田 彰和 学校教育G員 水野 葉月	
協議事項	1 教育長挨拶 2 委嘱状交付 3 委員長・副委員長選出 4 委員長挨拶 5 議題 （1）豊山町立小中学校 学校給食における食物アレルギー対応マニュアルの見直しについて （2）アレルギー対応の実施状況について （3）意見交換 6 その他		
議事内容			
【1 教育長挨拶】 【2 委嘱状交付】 【3 委員長・副委員長選出】 【4 委員長挨拶】 【5 議題】 （1）豊山町立小中学校 学校給食における食物アレルギー対応マニュアルの見直しについて			
事務局	（資料1に基づき説明）		
委員長	これは、国の基準に沿って進めていくということか。		
事務局	そのとおり。		
（2）アレルギー対応の実施状況について			
事務局	（資料2に基づき説明）		
委員	卵と生卵は、どのように分けて、提供しているのか。		
事務局	提出された学校生活管理指導表に基づき、対応をしてい		

	る。
委 員	昨年度のアレルギー委員会で、今年度から、生卵のみのアレルギーがある子供は給食を食べても良いこととなった。生卵と他のアレルゲンを持っている子供が管理指導表を出してきた場合、他のアレルゲンに加え生卵と書いてあることがあるので、このように区分した。
委 員 長	管理指導表に、生卵と卵を別々に書くように指示がされたということか。
委 員	昨年度のアレルギー委員会で給食では生卵は出さないとマニュアルに明記し、医師から生卵のみ摂取不可と書かれた子供に関しては、給食で卵料理を食べることができることとなった。
委 員	管理指導表の話だが、私の子供も小学4年生だが、アレルギーがある。子供が年長のときに、保育園での管理指導として医療機関からいただいた話では、加熱卵は摂取可能と書いてもらった。そうした書き方の違いで、生卵や卵と書いてあるのではないかと推測する。
委 員 長	この分類表の中で、あえて区分けをしたということか。
委 員	そのとおり。果物についても豊山町は、生は不可だが加熱したものは食べられる人は給食で加熱した果物を食べてもらっている。そういう区分けとして、卵も区分した。
委 員	小麦等のアレルギーについては、除去食はやっていないということか。
事 務 局	除去食としては、卵と乳の2つを行っており、それ以外は行っていない。
委 員	そういった子供は、自分で持ってくるのか。それとも、症状としては出ていないので食事としては食べさせているのか。
事 務 局	食べてもらっていない。無配膳対応をしている。足りなければ弁当対応をしてもらっている。
委 員 長	事前に家族も分かっていることなので、判断は保護者がすることになっている。
委 員	事前にアレルギーのある子供の保護者には、アレルギーの書類を渡して、食べる・食べない、除去食の選択をしてもらっている。弁当を持参する子供もいる。
委 員 長	何年間か経過したが、こうした取組で、順調に進んでいるか。
委 員	進んでいる。
委 員 長	このマニュアルは令和2年12月に作られているが、改定

	はその都度されており、現在の令和6年1月が本日配付されている。果物についても加味するようにされたので、加えた物もある。マニュアルの一番最後に献立表が書いてあるので、それを見て判断してもらっている。
委員長	資料2のフローチャートだが、一番下に「保護者へ取組プランの内容説明及び同意を得る」という項目があるが、各個人に行っているのか。
委員	教育委員会から戻ってきた個別の取組プランを保護者に渡し、同意を得た上でサインをいただいている。学校で書類を保管している。
委員長	給食センターも把握しているか。
事務局	今年度からアレルギーの所管は学校教育課から給食センターに移管した。各学校から給食センターに提出された取組プランについて同センターで決裁を起案し、決裁終了後、各学校の養護教諭宛に取組プランを承認した連絡をしている。その後、各学校において、保護者との間でサイン等のやりとりをしている。
委員長	委員は、子供が小学4年生でアレルギーがあるとのこと、学校との話し合いはどうか。
委員	私は豊山町とは別の地域に住んでいる。私の子供は現在までで、小麦、山芋、ごまのアレルギーがあり、エピペンを持って登校している。うちの地域では除去食対応はしておらず、設備的にも対応が難しいことは理解している。親としても学校に送り出す際、子供についてもそうだが、学校にも迷惑をかけてもいけない。妻は大変だとは思いますが、弁当を作って持っていくこと自体が、保護者と子供の安心に繋がるので、強く除去食を拡大してほしいと、求めているはない。 現在の職場において、今の所属に配属されたことは今年度が初めてで、過去にこうしたことを行っていることは知っており、過去の議事録を見たところ、他地区に比べても非常に良い取組をしている。こうした会議の場に参加できれば、と思っていた。 アレルギー面談も市町村によって大きく異なり、うちの地区では去年と同じなら面談は不要とされている。保護者側から求めを出して、時期を遅らせて開始となった。豊山町のような意識が高い自治体を見ると、自分の地区には違和感を覚える。豊山町の子供は恵まれた環境で給食が適用されていると思う。
委員長	このような豊山町以外のお市町の状況も知っておいた方

		がよい。
委	員	先ほど豊山町はしっかり面談をしているとの話があったが、確かにきちんとやっていると思う。しかし、学校側からの意見として、豊山小学校は今年度19件の面談を行ったが、数も多く時間もかかった。新1年生は45分、継続者は20分の予定だが、担任も参加し、授業後に行うので、日数もかかる。町教育委員会や給食センター職員も参加している。学校の中では管理職も必ずその場にいないといけないため教頭も面談全てに参加するが、実際その場にいるだけである。今年度、北名古屋市から異動してきた教頭によると、北名古屋市では継続者の面談はやっていないとのことで、教頭からは豊山町で行っている継続者の面談に私も参加するのか、との話があった。皆で保護者を囲み面談を実施することは、非常に意義はあるが、始める時期が4月から順番に行っており、場合によってはゴールデンウィーク明けになったケースもあり、4月には既に給食を食べてしまっている。昨年の引き続きで、確認で終わるだけの面談のために、皆が時間を確保するのはどうか、ということが、学校から意見として挙がっている。新規はきちんとやっており、エピペンを持っている子供の保護者は担任とすぐに面談をしたいとの要望もあるため4月に対応はしている。また、内容に変化があった場合も確認を行っている。何も変わらず例年通りの子供は保護者も書類が同じなら面談は無くてもいいという方もいるのではないかと、思っている。それであれば、学校側も時間が削減できるので、良いのではないかと。 今日は、この場でこうした提案しようと思っていた。1月に来年の対応について聞き、面談をするかどうか、継続はするが面談を希望するか、変わらないので書類がきちんと整っていれば面談は無くても良いという方は、新年度も前年度と同じ内容であり書類も整っており大丈夫、ということで面談を省略するのもありかと考えるので、検討をいただけたらと思う。
委	員	保護者から見れば、1月の段階では担任が誰になるのか分からないので、新しい担任に伝えておきたいということはあると思う。事情を全く知らない先生が「書類は見たがそんなことは知らなかった」ということも考えられる。命に関わること。先生も短い時間で良いし、電話でも良いので。
委	員	整えた上で、マニュアルもできているので、それを渡して確認の電話を入れるといった方法に変えることもできるの

	ではないか。全員が揃って行う面談を無くすことができる場合もあるのではないかな。勤務の中で時間的に厳しく、苦しいのが現状。
委員長	時間的に延びていくこともあると思うが、学校は年度が変わると体制も変わるので、職員全員に周知ができない場合があることも加味しなければならない。面談は非常に効果があるもの。保護者が「もういいです」、と言われるのであれば、それでいいかもしれないが、その線引きをどう決めるかが重要ではないか。
委員	希望調査をとって。
委員	やらなくてもいい、といった人に限って、何かあったら後で文句を言うもの。
委員長	同意という形をどのようにとっていくのかを、考えてもいい。 アレルギーが変わっていくことはあまり無いのか、増えていくということは。
委員	新しく出ることもあるかもしれない。保護者も面談で大勢に囲まれるのは大変かもしれない。
委員長	今の面談は、管理職が一人、担任、養護教諭、栄養教諭、町教育委員会が入っている。
委員	あと、給食主任も入っている。
委員	給食主任が入る学校もあるが、豊山小学校は面談に入る人数が多すぎるので、給食主任は除いている。
委員	4月最初の立ち上がりのところで、そこばかりに時間はさけないので、安全管理については私たちも職員会議で周知を図っている。豊山小学校の面談人数が十数人は突出しており大変だと思う。新栄小学校は3年前まで、校長と教頭の両者が出席していたが、今は教頭だけにしている。私は志水小学校に異動したが、志水小学校でも教頭だけの出席としており、教頭が出張等で不在のときは、私が代わりに出席している。
委員長	修学旅行等でも学校側が配慮することになるが、そうしたことも、面談の中で学校生活の一環として話が出るのか。
委員	学校生活を行う上でのアレルギー面談という位置付けなので、話はしている。特に5年生、6年生は宿泊があるので、メニューに関して詳しい調査をすることを伝えている。調理実習も同じ。年に1～2回症状が出るかどうかという程度のナッツ系も面談をするのか。それらは、簡略化ができるのではないかな。

委員長	委員のように、分かっている人がずっとやっていれば安全である。慣れている人はすぐに判断ができるが、異動で人が変わったとき、その人は判断するために様々なことを考えなければならない。 保護者側からはどうか。
委員	先ほど、学年が変わると担任も変わるとの話があったが、毎年確認することは保護者として心強い。 アレルギーではないが、子供に特性がある保護者の話を聞くと、毎年担任に伝えるのは大変との話を聞いたことがある。前任の先生から引き継いでもらえばよいが、何か起きた時に「言ってあったのに」という気持ちもあると思うので、学校での面談を無しにするのはどうかと思う。保護者側から断る形、例えば「去年と一緒なのでやらなくても大丈夫」、「特定の食品だけ気を付けてもらえば良いので大丈夫」ということなら良いと思う。ただし、コミュニケーションの場は必要だと思う。最初の1年生はしっかりやり、学年の経過とともに参加人数を減らして面談をするか、保護者が選択できるようにすることが必要だと思う。せっかく良いことを行っているので、面談を減らすのは抵抗がある。 ただし、面談の出席者は多いので、養護教諭、給食の人、担任が出席すれば十分だと思う。校長や教頭よりも担任が一番内容を知っていてほしい。
委員	学校全体としての確認が必要なので管理職は出席している。
委員長	それだけ大きな問題。現在、豊山町はうまく運営できており、事故は起きていないが、起こらないとも限らない。担任に理解してもらうのが一番だが、管理職もそれなりのリスクを負っているということを考えてほしい。
委員	実際にエピペンを使うまでに発症したことはあるのか。
委員	エピペンを使ったことは無い。
委員	ショック症状になるとか、医療機関を受診するとかは、今まで無かったということか。
委員	そういったことが起こらないように対応している。
委員	面談による対応をしているから起きていないのであれば、それを削減するのはどうかと思う。
委員	エピペンの子供は面談を行う。保護者も新担任と面談したいとの申し出があるので行っている。 無くても良いと思っている方もいるので、保護者に希望をとっても良いのではないかと思います。

委 員	アレルギーは血液検査による数値でも出ているが、私たちは、どんな症状が出るのか、人により異なるので、例えば喉のイガイガ感や発疹が出るとか、それが直近でいつ起こったのかを一番知りたい。1～2歳の頃に起こったことを、ずっと引きずっており、母親は大丈夫と言うが、直近の発症時のことを聞くと、五平餅を食べたときとか、くるみとか、クッキーにアレルゲンが入っていることを分からずに摂取し発症したとか、話をして、そのようなことも情報として知れると良い。
委 員	それは、最初の面談で全員に確認している。 数値で見ることができる人もおり、症状はほぼ出ないが確認だけしている人が何人かいる。
委 員	数値だけでは本来はよくない。出ていないから、良いのではないと言われても、やめてほしい。 嫌いな物を食べない子供が小学校に上がると、嫌いで食べないから、そもそも試もしない保護者も多い。数値だけというのは問題がある。1月では早いので4月になって聞いた方が良い。
委 員	書類を整えるのは1月から準備をする必要がある。
委 員 長	学校側が決めるのではなく、保護者の意向で決めていくことになる。もうあの子供は不要という学校の判断は無しにしなければならない。そうならないように、書類に沿って聞いていくのだが、保護者に寄り添った聴き方にしないと、何故これを全員に行わないのかと聴かれたときに、時間が長くなるからというのは理由にならない。保護者が、うちは大丈夫なのでいいです、という返事が多くなったから削減するなら、将来的に通る話だとは思う。せっかく決めた内容なので、もう少し吟味する内容である。あるいは、委員が保護者に渡して適切な判断をしていただける形式的なものを作れるなら。
委 員	そういうのを作ってもらえないかと思う。 3月に面談の日程を決めている。
委 員	4月に日程を決めていては間に合わない。
委 員 長	学校で、内容を決めることはできるのか。
委 員	学校ごとに対応が変わるのは良くない。町全体として統一的に、学校でどうするかを決めるべきである。
教 育 長	消防で操法というのがある。一つずつ確認をしながら作業を行っており、一見すると形式的に見えるが、繰り返すことにより、危機管理の際には訓練のとおり実践することがで

	き、効率的に組まれた活動である。 今回の件は命に関わることなので、何かあったときに保護者から同意を得たかどうかということ、言った言わないということは必ず起こる。大変なことになるので、検討委員会委員に結論は任せるが、省略して良いものと良くないものがあるとすれば、最大限の安全管理、安全配慮はしてほしいというのが事務局の考え方であるので、よろしくお願ひしたい。
委 員 長	それは、私たちも考えているが、仮に来年に向けてなら、どのくらいの方が大丈夫なのかは分かるものなのか。
委 員	やってみないと分からないが、保護者の中には、「はい、大丈夫です。終わりです。」と言って早々に帰る人もいる。そのような人は、面談に来ること自体がどうなのかと思ってしまうので、書類上で済ませて新担任も保護者と確認をきちんととっておけば、こちらの体制も分かっているの、できるのではないかと。
委 員 長	保護者のそうした態度を見ると、やる必要はないのではないかと思うということですね。ただ、これは保護者のためにやっているのではなく、子供のためにやっていることなので、保護者の顔色云々ではなく、子供のために必要なこととして判断するしかないのではないかと、思うがどうか。
委 員	他市町は、無くしている所が多く、世間はそういう流れなのかと思い、面談削減は可能かどうかという提案である。
委 員 長	保護者からは、やってもらった方が良いとの認識だが。
委 員	希望されれば行う。
委 員	希望する人ほど実は安全で、希望していない人の方が安全ではないかもしれない。そうすると、実施しない学校の責任が重くなるかもしれない。 保護者がきちんと分かっているのかどうか、分からないので。面倒臭いから行きたくない、という人もいるかもしれない。
委 員 長	もうしばらくの間は、現在の手法で行い、どうしても、ということがあれば、また検討委員会に提案をしていただく、ということでまとめていきたい。
(3) 意見交換	
教 育 長	児童・生徒数は減少しているが、資料2別紙によると、アレルギー対応者が増えている。増える一般的な要因は何か。また、今後も増えていくのか。
委 員	不明である。
教 育 長	食生活の変化か、離乳食から始まり、学校給食に至るが、

	今は簡単に作ることができる物もある。昔は手作りが多かったが。
委 員	人間は耐性があるので、それに対して反応しないもの。ミルクや牛乳についても、現在調べられている。最初に飲んでいて、しばらくやめた後に飲んだらまた出たとか、色々ある。ナッツも赤ちゃんの頃に皮膚が荒れた状態の時に触れたことが要因ということもあるかもしれない。
教 育 長	アレルギーの増加は、世界的な傾向なのか。
委 員	アレルギーは、世界でも研究がされており、日本が特殊な訳ではない。種類が増えてきたことは分かっている。
委 員 長	愛知県の中でも、多い地区やそうではない地区がある。特定の要因があるのかどうかは不明。
委 員	公害の影響もあるのかもしれない。
委 員 長	命に関わることがあるのも事実。どうしていくのかは、こうした検討委員会で考えていくべきこと。
委 員	就学前の小さい子の健診時にアナウンスすることはないのか。
委 員 長	保健センターで栄養士が行っている。
委 員	健診の度に、色々に行っている。この検討委員会は小中学校の児童・生徒が対象。
【6 その他】	
事 務 局	次回の検討委員会は来年3月頃の開催を予定していることを報告。